



子どもたちが描く

「未来の古河市」



こ が
古 河

広
報

No.122

11

NOVEMBER
2015



10 古河市合併 周年記念式典

Koga-city 10th anniversary



10月2日、古河はなもも体育館(中央運動公園総合体育館)において、合併10周年記念式典が盛大に行われました。当日は、姉妹都市や県内・近隣自治体、市民など約800人が出席。市長式辞や来賓祝辞、新古河大使の委嘱、「未来の古河展」の表彰および小学生による作文の発表などが行われ、古河市の発展と飛躍を誓う式典となりました。

古河市 10年のあゆみ

平成17年
10月 初代市長に白戸仲久氏就任
9月 新「古河市」誕生(12日)



平成18年
1月 新「古河市」誕生記念式典
山形県真室川町と「姉妹都市閉約」
福井県大野市、栃木県さくら市、
市章デザイン決定



平成19年
8月 俳優・渡辺徹氏を古河大使に委嘱
7月 映画監督・樋口真嗣氏を古河大使に委嘱
6月 作家・永井路子氏(古河市長名誉市民)を古河大使に委嘱
3月 「第1次古河市総合計画」策定
8月 第1回古河花火大会
5月 市協定「締結」
中国三河市と「国際友好交流都

10年の時を経て 新たな未来を切り開く

本市は平成17年9月12日に、古河市、総和町、三和町の1市2町が新設合併し、今年で10周年を迎えました。行政や祭事におきましては地域性等々の違いから、さまざまな壁を乗り越えての互いの努力と協調の10年でありました。

これまでの10年を糧に、古河市の明るい未来を見据えたまちづくりに懸命に取り組んでまいりますことをお約束いたします。

わたしの目指す行政は「市民が主役のまちづくり」です。市民目線に立った行政を常に心がけ、市民のご要望やご意見を取り入れた、開かれた行政を、これからも推進してまいります。

ご周知のことですが、日本はごく一部の地域をのぞいて全国的な人口減少に悩んでいます。古河市も例外ではありません。合併後10年で約4,000人減りました。このまま何もしないでいますと、約30年後には若い女性の40%以上が古河市からいなくなるとの予想です。それゆえに私は今、「若者に選ばれるまちづくり」を錦の御旗に数々の施策を展開し、「子育て支援の徹底」と「楽しい学校づくり」に全力で取り組んでいます。

また、産業振興による「雇用のさらなる拡大」も最重要課題の一つです。防災に強い都市基盤の整備をはじめ、新たな工業団地造成の計画を視野にいれ、関係者や関係機関と協議の途上にあります。

今後も職員と共に力を合わせ、古河市の発展を言葉に持てる力のすべてを傾注してまいります。みなさまのご理解とご協力をお願い申し上げます。

～市長式辞より～



▲未来の古河市をテーマに、市内の小学生がポスター・絵画、作文を作成した「未来の古河展」。夢のある4,322作品の応募がありました。写真左から、ポスター・絵画の部最優秀賞の奥山葵晴くん(表紙上段右から1番目の作品)、作文の部最優秀賞の宮内梓衣さん、北山優香さん、下條佳穂さん、武石愛理さん



▲大勢の皆さんに出席いただきました

11月

古河市水泳交流大会開催
ねんりんピック茨城2007



平成20年

3月 プロ野球選手・仁志敏久氏を

古河大使に委嘱

4月 自治組織再編

5月 市の木「ケヤキ」、市の花「ハナ

7月

運行開始
デマンド交通「愛・あい号」

「モモ」制定



平成21年

2月 男女共同参画都市宣言

10月 市長に白戸仲久氏再任

「古河市自治基本条例」制定

平成22年

2月 奥原晴湖画室移築

8月 住民基本台帳カードの愛称を

「MOMOCA」に決定

9月 関東ド・マンナ力宣言

10月 合併5周年記念式典

女性消防団員誕生

古河大使に委嘱

春風亭柳橋さん

浅野恭司さん



【メッセージ】古河に生まれ育ち、現在もお世話になっております。大好きな古河の歴史や文化を全国各地でPRいたします。

しゅんぷうていりゆうきょう
春風亭柳橋さん

古河市出身・在住の落語家。昭和57年に七代春風亭柳橋に入門し、平成20年9月八代春風亭柳橋を襲名。全国で落語会等を展開している。



▲合併記念式典では記念高座で会場を盛り上げていただきました

古河市 10年のあゆみ

平成23年 3月 「MOMOCA」による証明書

3月 「MOMOCA」による証明書

4月 古河市文化協会設立

4月 古河市文化協会設立

平成24年 2月 地域交流センター「はなもも

2月 地域交流センター「はなもも

4月 プラザ」オープン

4月 「お休み処 坂長」オープン

6月 交通安全都市宣言

7月 登録湿地となる

7月 登録湿地となる

7月 渡良瀬遊水地がラムサール条約

7月 渡良瀬遊水地がラムサール条約

12月 第2代市長に菅谷憲一郎氏就任

12月 第2代市長に菅谷憲一郎氏就任

平成25年 1月 羽村市と「災害時相互応援協定」

1月 羽村市と「災害時相互応援協定」

2月 締結

2月 県西10市町と「県西都市間にお

3月 締結

3月 第1回サンスポ古河はなもも

3月 第1回サンスポ古河はなもも

ける災害時相互協定」締結

ける災害時相互協定」締結

マラソン開催

マラソン開催

第1回サンスポ古河はなもも

第1回サンスポ古河はなもも

ける災害時相互協定」締結

ける災害時相互協定」締結

マラソン開催

マラソン開催





「古河大使」は、古河市にゆかりのある著名な方々を大使に委嘱し、古河市の応援メッセージをさまざまな機会を発信していただいたり、まちづくりに対する助言をいただいたりする制度です。

すでに、古河大使として活躍していただいている作家の永井路子さん、映画監督の樋口真嗣さん、俳優の渡辺徹さん、元プロ野球選手の仁志敏久さんに加え、このたび、落語家の春風亭柳橋さんとアニメーターの浅野恭司さんに「古河大使」を委嘱。6人の古河大使が誕生しました。

委嘱式は、10月2日の「まくらがの古河 合併10周年記念式典」で行われました。

【問】秘書広報課（総和庁舎） ☎92-3111



あさのきょうじ
浅野恭司さん

古河市出身のアニメーター。数多くのアニメで作画監督、キャラクターデザインを担当。古河市合併10周年記念キャラクター「万寿王丸」のデザインも手掛けている。




▲街角美術館等で毎年開催している「原画展」には海外からも来場者が訪れ好評です




【メッセージ】古河出身を誇りに想い、魅力ある街として多くの人にアピールしていきたいと思ひます。

7月	柳橋恩名線（開通） 県道尾崎境線・筑西幹線（市道）	11月	大野市と「災害時における行政情報発信に関する覚書」締結	12月	非核平和都市宣言	平成26年	6月	坂東市、境町、五霞町、県建設業協会境支部と「災害時等における相互応援に関する協定」締結	8月	学校給食センター完成	平成27年	3月	子ども・子育て支援財団設立	4月	野木町と「観光自転車返却受付施設の相互利用に関する協定」締結	10月	合併10周年記念式典
----	------------------------------	-----	-----------------------------	-----	----------	-------	----	---	----	------------	-------	----	---------------	----	--------------------------------	-----	------------



道の駅「まくらがの里こが」オープン



サポートセンター開設



ハローキティアート展

9月19日～10月12日まで「ハローキティアート展」が、はなももプラザ(地域交流センター)で開催されました。3代目デザイナー・山口裕子氏のオリジナルアート作品(大型絵画やオブジェなど)や40年以上に渡るキティの歴史を懐かしいグッズやデザインで振り返る展覧会には、期間中約6,000人が来場。初日と10月4日にはキティも会場に遊びに来てくれて、子どもたちは大喜び。一緒に写真を撮ったり、握手をしたりしました。

昭和49(1974)年に誕生したハローキティ。成長し続けるハローキティの魅力が詰まった、世代を超えて楽しめる展覧会となりました。

© '76,'04,'15 SANRIO APPROVAL No.SP561517

古河市合併10周年記念

子ども未来事業



「ワンワンとあそぼうショー」 子どもたちの笑顔が満開

10月10日、NHK E テレの幼児番組『いないいないばあっ!』のワンワンが古河関東ド・マンナカ祭りに登場。音楽を使った遊びや体操を通じて、親と子が温かくふれあえるステージショーが行われました。

いつもはテレビで見ているワンワンを前に、子どもたちはステージに夢中。うたのおねえさんに合わせて歌を歌ったり、ワンワンのダンスに合わせて元気に体を動かす子どもたち。大勢の親子の笑顔が見られました。



© NHK・NED



④



⑤



⑦



⑥

- ①会場の外にはスイーツのお店も多数出店。キティちゃんも遊びに来ました
- ②「あっ、懐かしい！」と思える文具など関連グッズを展示。キティグッズを見ているだけで、そのときの流行がわかっておもしろいですね
- ③初日は、多くの子どもたちが参加して「グリーティング・セレモニー（記念式典）」が開催されました
- ④『アリスキティのお茶会』など超大型絵画や関連グッズ約300点を展示
- ⑤⑥好評だった「ぬり絵コーナー」。キティちゃんも遊びに来てくれるサプライズも
- ⑦キティちゃんと一緒に写真撮影。たくさんの笑顔がみられました

「かいけつゾロリ」の作者 原ゆたか先生あらわる

10月3日、^{さん}燦SUN館(三和図書館資料館)で、累計発行部数3,500万部を超える児童書「かいけつゾロリ」シリーズを手掛ける原ゆたか先生による「講演会」と「おえかき会」が行われました。

原先生自ら^{みずか}「ゾロリ」の描き方を教えてくれる「おえかき会」には、小学生50人が参加。会場内を歩いて回り、一人ひとりに「おっ、かわいいね」「おもしろく描けたね」と優しく声をかけてくれる原先生。ゾロリの愛読者である子どもたちにとって貴重な体験となりました。





古河 関東ド・マンナカ祭り
まぐらがの古河 合併10周年記念 ■主催 古河市 ■主管 古河関東ド・マンナカ祭り実行委員会



**古河関東
ド・マンナカ祭り**

秋を彩る
古河のイベント



**和太鼓
フェスティバル**





古河ふれあい広場 2015

10月10日・11日、中央運動公園で「第17回古河関東ド・マンナカ祭り」が行われました。市内の事業所など100店以上が出店。初日はフラダンスやサンバダンス、2日目は「民俗芸能のつどい」として神輿や山車が集結してお囃子や神楽・ささらなどが披露されました。「楽しく・おいしく・にぎやかな祭り」には2日間で約16万人が来場しました。【写真①～⑤】

9月26日、ネーブルパークで「古河ふれあい広場2015」が開催されました。テーマは「ひろげよう みんなの輪 ころの和」。子どもから高齢者、障がいのある人やボランティアが集い、ふれあいの中から福祉の目を育てようと、ステージ発表のほか、手話や点字、車椅子体験ブースや模擬店が立ち並び、多くの人でにぎわいました。【写真⑧～⑪】

9月5日、市役所古河庁舎中庭で「第19回日本の音 和太鼓フェスティバル」が開催されました。当日は、市内および加須市・板倉町から5団体が参加し、迫力ある演奏を披露しました。和太鼓の力強い音が心と体に響き渡り、日本伝統芸能の素晴らしさをあらためて知る機会となりました。【写真⑥～⑦】

9月5日～11月29日まで約3カ月、市内各会場で「古河市民文化祭」が開催中です。書・絵画・写真・華道・手工芸などの展示のほか、唄や踊りの発表など、日頃の芸術文化活動の成果が披露され、文化の華が美しく咲き誇っています。【写真⑫～⑬】

市民文化祭



古河市の財政状況

歳入 513億6,245万円
(前年度比 6.8% 増)

市の財政は、皆さんが納める税金や国・県からの補助金、地方交付税などをもとに運営されています。

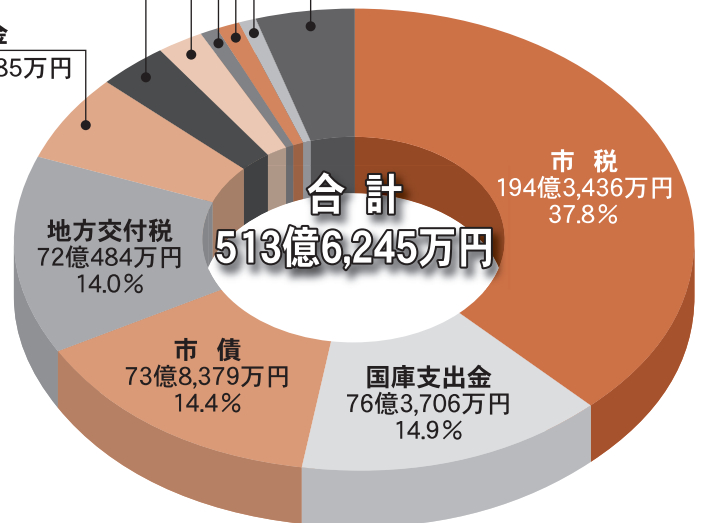
ここでは、私たちの住んでいる古河市の財政状況をお知らせします。

【問】 財政課(総和庁舎) ☎ 92-3111

繰入金 5億2,132万円 1.0%	分担金および負担金 4億7,410万円 0.9%
諸収入 11億7,607万円 2.3%	地方譲与税 4億5,693万円 0.9%
地方消費税交付金 15億7,188万円 3.1%	その他 23億7,925万円 4.6%
県支出金 31億2,285万円 6.1%	

一般会計の概要

平成26年度の一般会計の決算は、歳入決算額が513億6,245万円、歳出決算額が489億9,806万円となり、歳入歳出差引額は23億6,439万円、翌年度に繰り越すべき財源4億1,488万円を差し引いた実質収支額は、19億4,951万円の黒字となりました。



固定資産税



55,030円

個人市民税



48,643円

法人市民税



12,791円

たばこ税



8,363円

都市計画税



7,261円

軽自動車税



1,968円

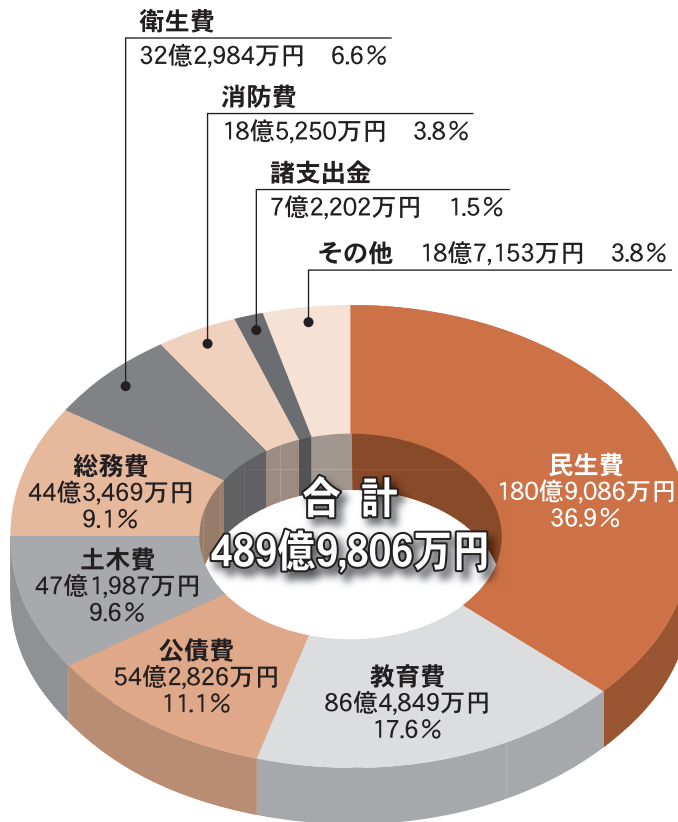
市民1人あたりの市税

134,056円

※一般会計の歳入額(市税)・歳出額(全体)をもとに、平成27年4月1日現在の人口(14万4,972人)で計算。

歳出 489 億 9,806 万円

(前年度比 5.3% 増)



用語解説

- 市税**：市民税（個人・法人）や固定資産税など
 - 国庫支出金・県支出金**：特定の事業に対する国・県からの補助金
 - 市債**：国や銀行などからの借入金
 - 地方交付税**：財政状況に応じて国から交付されるお金
 - 地方消費税交付金**：地方消費税を財源として、人口などに応じて県から配分されるお金
 - 諸収入**：ほかの項目に分類されない収入
 - 繰入金**：一般会計、特別会計、基金の間で相互に資金運用するもの
 - 分担金・負担金**：保育園の保育料など
 - 地方譲与税**：地方道路譲与税、自動車重量譲与税など
 - その他**：使用料、手数料、前年度からの繰越金など
 - 民生費**：保育園や障がい者、高齢者など福祉の経費
 - 教育費**：小・中学校の運営や、市民の学習・文化活動の経費
 - 公債費**：借入金の返済のための経費
 - 土木費**：道路、河川、公園などの整備・維持管理経費
 - 総務費**：市の全体的な管理事務の経費
 - 衛生費**：ごみ処理や病気の予防などの経費
 - 消防費**：消防や救急活動、防災関係の経費
 - 諸支出金**：基金への積み立ての経費
 - その他**：農林水産業費、商工費、議会費など
- ※公債費、諸支出金以外の経費については、それぞれ職員人件費を含みます。

市民1人あたりに
使われたお金
337,983円

民生費



124,789円

教育費



59,656円

公債費



37,444円

土木費



32,557円

総務費



30,590円

衛生費



22,279円

消防費



12,778円

その他



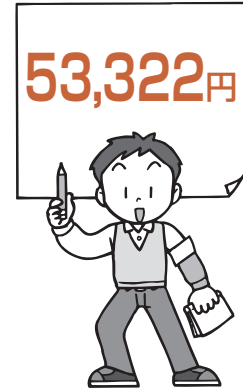
17,890円

 **市の貯金**

基金の残高

基金名	平成25年度末 残高(A)	平成26年度末 残高(B)	増減(B)－(A)
財政調整基金	26億9,095万円	32億2,102万円	5億3,007万円
減債基金	6億9,788万円	6億2,386万円	△7,402万円
公共施設整備基金	1億4,321万円	1億9,323万円	5,002万円
ふるさと振興基金	3,621万円	3,656万円	35万円
新駅設置準備基金	3,950万円	3,951万円	1万円
教育振興基金	964万円	964万円	—
地域福祉基金	3,291万円	3,292万円	1万円
自治振興基金	8億4,741万円	7億5,250万円	△9,491万円
合併特例振興基金	16億 84万円	14億 616万円	△1億9,468万円
企業立地調整基金	4億4,591万円	4億2,376万円	△2,215万円
その他	8億7,740万円	9億9,102万円	1億1,362万円
合計	74億2,186万円	77億3,018万円	3億 832万円

市民1人あたりの貯金



※平成27年4月1日現在の人口14万4,972人で計算しました。

 **市の借金**

借入額の残高

会計区分	平成25年度末残高(A)	平成26年度末残高(B)	増減(B)－(A)	
一般会計	591億7,737万円	618億4,592万円	26億6,855万円	
特別会計	公共下水道事業	185億3,515万円	178億5,772万円	△6億7,743万円
	農業集落排水事業	51億3,680万円	49億3,434万円	△2億 246万円
	古河駅東部土地区画整理事業	18億6,796万円	18億6,758万円	△38万円
	片田南西部土地区画整理事業	8億 685万円	7億4,812万円	△5,873万円
	公共用地先行取得事業	10億7,607万円	8億8,867万円	△1億8,740万円
小計	274億2,283万円	262億9,643万円	△11億2,640万円	
水道事業	79億6,882万円	73億2,644万円	△6億4,238万円	
合計	945億6,902万円	954億6,879万円	8億9,977万円	

市民1人あたりの将来負担額

※将来負担額とは市が将来支払う可能性のある実質的な負担額のことです。

	平成24年度	平成25年度	平成26年度
将来負担額	284億4,096万円	263億231万円	250億5,506万円
人口(4月1日現在)	14万6,066人	14万5,429人	14万4,972人
1人あたりの将来負担額	19万4,713円	18万 860円	17万2,827円

特別会計の概要

特別会計(12会計)の決算額を合計すると、歳入が322億1,984万円で前年度と比べて5億3,424万円(1.69%)の増加となり、歳出が317億2,404万円で前年度と比べて6億3,154万円(2.03%)の増加となりました。

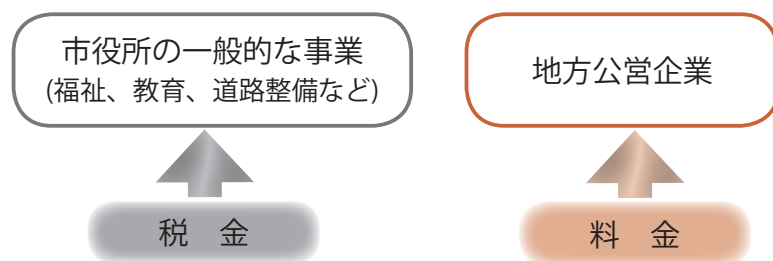
各会計の歳出決算の主な増減としては、介護保険(保険事業勘定)が約3億7,600万円、公共下水道事業が約3億1,100万円、古河駅東部土地区画整理事業が約2億3,000万円の増加となり、農業集落排水事業が約1億7,900万円の減少となりました。

区分	歳入(A)	歳出(B)	差引額(A-B)
国民健康保険(事業勘定)	162億3,008万円	161億2,546万円	1億 462万円
国民健康保険(直診勘定)	5,273万円	4,908万円	365万円
古河福祉の森診療所	1億9,899万円	1億8,462万円	1,437万円
後期高齢者医療	10億9,562万円	10億9,333万円	229万円
介護保険(保険事業勘定)	84億8,226万円	83億7,800万円	1億 426万円
介護保険(介護サービス事業勘定)	6,703万円	6,554万円	149万円
公共下水道事業	40億2,524万円	39億 895万円	1億1,629万円
農業集落排水事業	6億3,318万円	6億1,529万円	1,789万円
ゴルフ場事業	1億1,305万円	9,468万円	1,837万円
古河駅東部土地区画整理事業	8億7,172万円	7億9,560万円	7,612万円
片田南西部土地区画整理事業	2億5,174万円	2億1,529万円	3,645万円
公共用地先行取得事業	1億9,820万円	1億9,820万円	—
合計	322億1,984万円	317億2,404万円	4億9,580万円

水道事業会計の概要

水道事業は法律において「地方公営企業」と位置付けされており、事業に必要な経費は、原則としてお客さまからいただく水道料金などの収入でまかなう「独立採算の原則」に基づき運営されています。

【問】水道課(三和庁舎) ☎76-1511



●主要事業

- 三和浄水場…ろ過機改修工事
- 三和地内……7号取水井改修工事
7号取水井電気設備更新工事
- 配水管整備…未整備地区解消のための拡張工事
石綿セメント管の布設替工事

●業務概要

給水人口	13万8,141人
普及率	93.5%
年間総給水量	1,608万6,927m ³
1日最大給水量	4万9,061m ³

※古河市給水区域に野木町大字野木、大字野渡が含まれています。

●決算

水道水をつくるための予算 (消費税等抜)	
収益的収入	24億2,528万円
収益的支出	20億7,772万円
(収支差額)	3億4,756万円
水道施設を整備するための予算 (消費税等込)	
資本的収入	1,579万円
資本的支出	11億4,354万円
(収支差額)	△11億2,775万円

※資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額は、過年度分損益勘定留保資金等で補てんしました。

財政指標を公表します

古河市の財政状況は「健全」です

地方自治体の財政状況を知るための指標に「健全化判断比率」と「資金不足比率」があります。これらの財政指標は「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」の規定に基づき、住民に公表することが義務付けられています。

古河市の平成26年度決算に係る「健全化判断比率」と「資金不足比率」は下表のとおりとなりました。

古河市の指標は、すべてが国の基準で「健全」とされる範囲内です



		早期健全化基準		財政再生基準	
		健全	早期健全化団体	財政再生団体	
健全化判断比率	実質赤字比率	古河市 ⇒ 赤字なし	11.84%を 超えると	20%を 超えると	
	連結実質赤字比率	古河市 ⇒ 赤字なし	16.84%を 超えると	30%を 超えると	
	実質公債費比率	古河市 ⇒ 8.9%	25%を 超えると	35%を 超えると	
	将来負担比率	古河市 ⇒ 102.0%	350%を 超えると		

		経営健全化基準	
		健全	経営健全化団体
資金不足比率	<ul style="list-style-type: none"> 水道事業 公共下水道事業 農業集落排水事業 ゴルフ場事業 ⇒ 資金不足なし	20%を 超えると	

健全財政 ←————→ 財政悪化

※「健全化判断比率」4つの指標のうち1つでも「早期健全化基準」を上回ると、市の財政状況は黄信号と判断され、「早期財政健全化団体」となります。さらに「財政再生基準」を上回ると赤信号となり、財政運営にあたり国の指導を受ける「財政再生団体」となります。

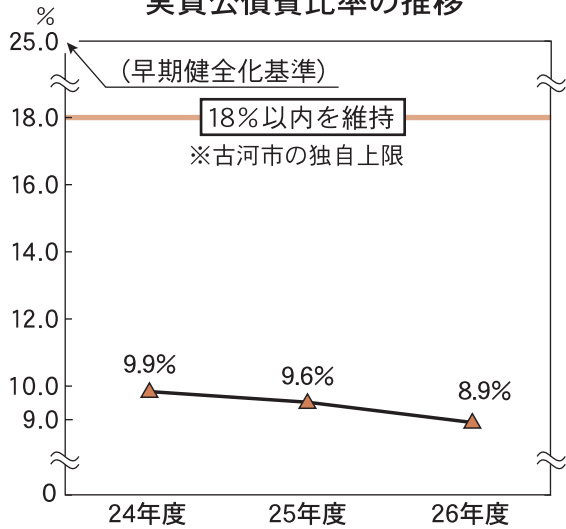
指標の説明

- **実質赤字比率**
一般会計等の赤字の程度を示す指標です。
- **連結実質赤字比率**
公営企業なども含めた市全体の赤字の程度を示す指標です。
- **実質公債費比率**
実質的な公債費(市債の返済)が財政に及ぼす負担を表す指標です。
- **将来負担比率**
市が将来支払う可能性のある実質的な負債の財政規模に対する比率を表す指標です。
- **資金不足比率**
公営企業等の料金等収入の規模に対する資金不足の程度を示す指標です。

主な財政指標および財政調整基金残高の推移

市では、国が示した早期健全化基準とは別に独自に基準を設定して、財政の健全性が保持できるように努めています。

実質公債費比率の推移



グラフ内の用語解説

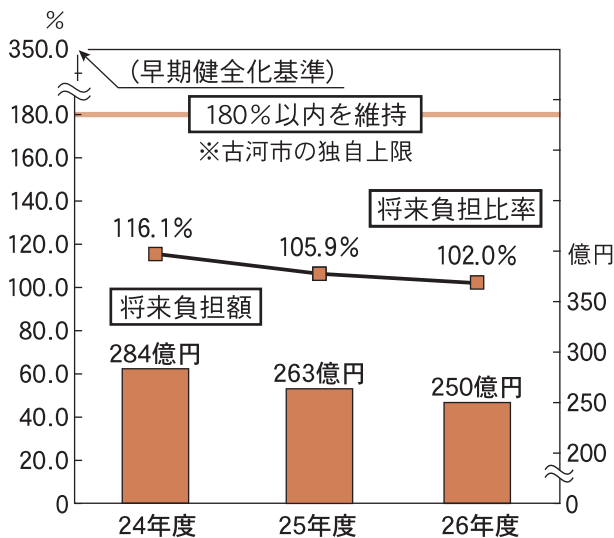
● 財政調整基金

年度間の財源の不均衡を調整するための貯金の中で、計画的な財政運営を行うために財源に余裕のある年度に積み立て、財源が不足する年度に取り崩して活用します。

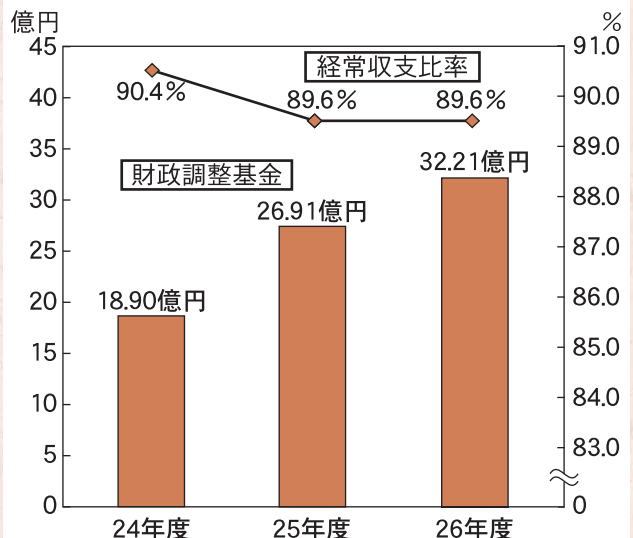
● 経常収支比率

人件費・扶助費・公債費のように毎年度経常的に支出される経費が、市税等毎年経常的に収入される一般財源に占める割合を指します。この比率が低いほど弾力性が大きく、政策的に使えるお金が多くあることを表します。

将来負担比率と将来負担額の推移



財政調整基金残高および経常収支比率の推移



事業評価を実施しました

市では、平成26年度に行った事業を対象とした事業評価を実施しました。評価にあたっては、各担当部署において事業の目的や効果の達成状況をもとに数値指標を設定して評価を行いました。

評価結果は、市公式ホームページおよび右記の市内各施設でご覧になれます。

【問】 行政改革推進室(総和庁舎) ☎92-3111

■ 『事業評価書』を閲覧できる施設

【古河地区】 古河庁舎市民サービス室
古河東公民館、中田公民館
はなももプラザ(地域交流センター)

【総和地区】 総和庁舎行政改革推進室
ユースセンター総和
とねミドリ館(生涯学習センター総和)

【三和地区】 三和庁舎市民サービス室
燦SUN館(三和図書館資料館)



オレンジリボンには子ども虐待を防止するというメッセージが込められています

11月は児童虐待防止推進月間です

子どもを守るべき立場にある保護者や養育者が、子どもに虐待を加え、命さえ奪ってしまうという痛ましい事件が後を絶ちません。

11月1日～30日は、厚生労働省、内閣府が提唱する「児童虐待防止推進月間」です。児童虐待によって、かけがえのない命が失われることのないよう、「児童虐待かも…?」と気づいたら、迷わず相談や通告をお願いします。相談や通告は、匿名でもかまいません。相談や通告をした人のプライバシーは保護されます。

【問】子育て応援課（総和庁舎）

☎ 92-3111



「もしかして」
あなたが救う
小さな手

児童虐待とは…

身体的虐待

なぐ、殴る、蹴る、叩く、投げ落とす、激しく揺さぶる、やけどを負わせる、溺れさせる など

性的虐待

子どもへの性的行為、性的行為を見せる、ポルノグラフィの被写体にする など

ネグレクト

家に閉じ込める、食事を与えない、ひどく不潔にする、自動車の中に放置する、重い病気になっても病院に連れて行かない など

心理的虐待

言葉による脅し、無視、きょうだい間での差別的扱い、子どもの目の前で家族に対して暴力をふるう（DV） など

周りの人が虐待に気づくきっかけ 「チェックリスト」

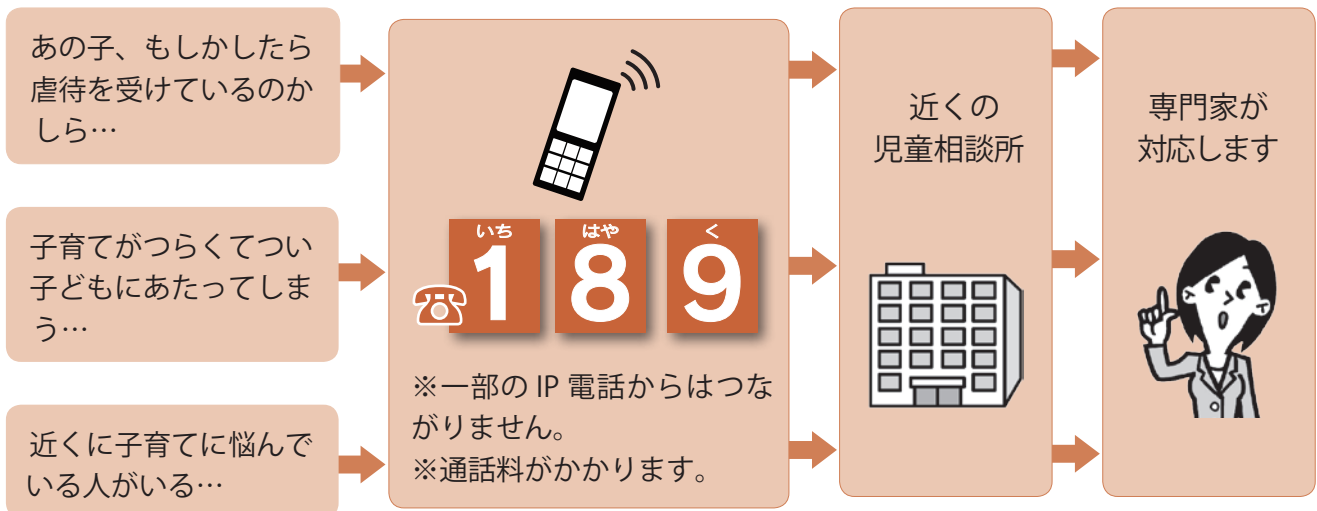
子どもの様子

- いつも子どもの泣き叫ぶ声や保護者の怒鳴っている声が聞こえる
- 不自然な外傷(あざ、打撲、やけど)などが見られる
- 極端な栄養障害や発育の遅れが見られる
- 衣服や身体が極端に不潔である
- 食事に異常な執着を示す
- ひどく落ち着きがなく乱暴、情緒不安定である
- 表情が乏しく活気がない(無表情)
- 態度がおどおどしており、親や大人の顔をうかがったり、親を避けようとしたりする
- 誰かれなく大人に甘え、警戒心が薄い
- 夜遅くまで遊んだり、徘徊している
- 家に帰りたがらない

親の様子

- 地域や親族などと交流がなく、孤立している
- 小さい子どもを家に置いたまま、よく外出している
- 子どもの養育に関して拒否的、無関心である
- 子どもを甘やかすのはよくないと強調する
- 子どもに対して拒否的な発言をする
- 気分の変動が激しく、子どもや他人にかんしゃくを爆発させることが多い
- 子どもがケガをしたり、病気になっても医者に診せようとししない
- 子どものケガについて不自然な説明をする

こんなときはすぐにお電話ください



※ ☎0570-064-000でも近くの児童相談所につながります。

もしくは

- 市役所子育て応援課(総和庁舎) ☎92-3111(平日:午前8時30分~午後5時15分)
- 古河警察署(生活安全課) ☎30-0110
- 筑西児童相談所 ☎0296-24-1614(平日:午前8時30分~午後5時)
- いばらき虐待ホットライン ☎0293-22-0293(24時間対応)

いい日、いい日、
毎日、あつたか介護
ありがとう



11月11日は「介護の日」です

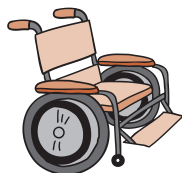
11月11日は「介護の日」。介護について理解と認識を深め、介護を受ける人や家族、介護をする人のために、地域での支え合いや交流について考える日です。

今は介護をしていない人も、いつか家族の介護をする立場になったり、介護を受ける立場になったりするかもしれません。「介護の日」をきっかけに、それぞれの立場で「介護」について考えてみましょう。

これからの介護

市内の65歳以上の高齢者は、平成27年4月現在で3万5,596人、高齢化率は24.5%。これは、約4人に1人が高齢者ということになります。そのうち、介護保険の認定者は5,046人です。

高齢者の増加に伴い、ひとり暮らしや高齢者のみの世帯、認知症の人の増加などにより介護が必要な人は、ますます増えていくと予想されます。



前向きに介護を続けるために

子育てとは異なり、介護は先が見えない長期戦です。介護を続けていくためには、頑張りすぎないことが大切です。

また、一人で抱え込むことがないように、周囲の人のちょっとした心遣いや声掛けも重要となります。

次のページでは頑張りすぎない介護のポイントを紹介しますので、参考にしてみてはいかがでしょうか。

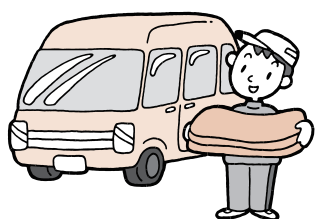


～頑張りすぎない介護のポイント～

介護をするのはとても大変なことです。介護保険サービスをはじめ、さまざまなサービスを上手に活用し、介護の負担をできるだけ少なくしましょう。デイサービスやショートステイを利用し、自分の時間を確保したり、介護を受ける人の状態や介護の状況にあわせた福祉用具を利用するなど、ストレスをため込まない工夫も大切です。

【介護保険の申請窓口】

- ・介護保険課
(総和福祉センター「健康の駅」内)
- ・総和庁舎市民サービス課
- ・古河庁舎市民サービス室
- ・三和庁舎市民サービス室



1

サービスを
有効利用
しましょう



2

介護を受ける側の
気持ちを
考えましょう

3

一人で悩みを
抱え込まないように
しましょう

介護を受ける人にもできることがあったら、お手伝いをお願いして「ありがとう」の言葉をかけましょう。邪魔に思われていない、家の中に居場所がある、という安心感が生まれ、介護をする側も受ける側も、相手を尊重し合い気持ちよく介護を続けることができるでしょう。

介護の悩みやストレスを抱え込まないように、人とのコミュニケーションを図る機会を意識的に作りましょう。介護者同士の交流会に参加したり、公的機関などの相談窓口を利用したりしましょう。

【問】地域包括支援センター(総和福祉センター「健康の駅」内) ☎ 92-5920

【高齢者の相談窓口】

- 総和・三和地区在住の人
 - ・地域包括支援センター
(総和福祉センター「健康の駅」内)
- 古河地区在住の人
 - ・地域包括支援センター古河
(古河福祉の森会館付属棟)



みんなの未来へ

～11月は子ども・若者育成支援強調月間です～

近年、情報化の進展により子ども・若者を取り巻く環境は大きく変化しています。

少年非行の問題・いじめの問題・児童虐待や児童ポルノなど、子どもが被害者となる事件等が相次いで発生しています。またスマートフォン等の普及に伴って、子どもが違法・有害な情報に触れる危険性がさらに増すことも懸念されます。

次の世代を担う子どもたちのために、県や市では家庭・学校・企業・地域の協力を得ながら、社会環境を改善するためにさまざまな事業・キャンペーンを展開しています。

11月は「子ども・若者育成支援強調月間」です。家庭・地域・学校が連携し、青少年の健全な育成に取り組んでいきましょう。

【問】生涯学習課（古河庁舎） ☎ 22-5111

古河市青少年相談員連絡協議会
副会長 野本 功さん



私たち青少年相談員は青少年の皆さんが健全に育つようにと願い、あいさつをしたり、声をかけたり、見守る活動をしたりしています。コンビニエンスストア・ゲームセンター・公園・その他気になる場所など、夜間に巡回しています。会った時に声をかけることがあります。返事をしてくれてとてもうれしいです。また、夏祭り・盆踊りなど地域の催しに家族やお友だちと楽しそうに参加している姿に安心します。

このところ青少年が被害に遭う報道があり、とても残念です。地域ぐるみの見守りが、その抑止力になればと思います。

青少年電話相談

☎ 0120-783747

✉ soudan@city.ibaraki-koga.lg.jp

～悩んだときには電話・メールをしてみよう～

- 学校のこと
- いじめや暴力のこと
- 異性関係のこと
- 家庭のこと
- 友だちのこと
- 気になること

相談日

月曜日～金曜日（年末年始、祝日を除く）

午前9時～正午、午後1時～4時

※時間外は、留守番電話にかかります。

知っていますか、

青少年の深夜外出は制限されています

8月には大阪府で深夜外出をしていた中学生2人が殺害されるという悲惨な事件が発生しました。茨城県では青少年の非行や犯罪を防止するために「茨城県青少年のための健全育成等に関する条例」により青少年の深夜外出を制限しています。「深夜外出の制限」の周知を徹底していくとともに、地域全体で青少年を見守り育てるように皆様のご協力をお願いします。

茨城県青少年のための健全育成等に関する条例

- 保護者は深夜（午後11時～午前4時）に青少年を外出させないよう努めなければなりません
- 何人も正当な理由がある場合を除き、保護者の許可なく、深夜に青少年を連れ出ししてはいけません
- 深夜に営業を行う事業者は、施設内にいる青少年に帰宅を促すよう努めなければなりません



▲市内で行われた「歴史と結ぶ真室川町と古河市との少年少女の集い」

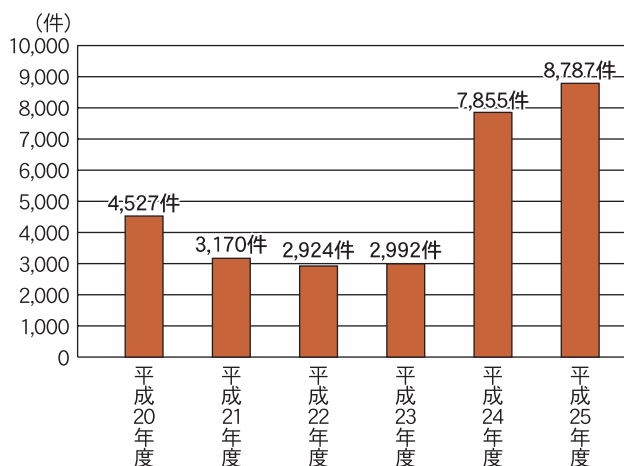
「ネットいじめ」が深刻化しています

現代の子どもたちにとってインターネットは欠かせないツールになっています。そのような中で近年増加しているのが、「ネットいじめ」です（グラフ参照）。

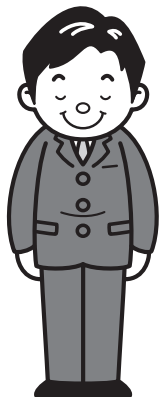
ネットいじめの特徴は匿名性により、不特定多数の人から絶え間なく誹謗・中傷の書き込みが行われ、短期間に被害が深刻なものになってしまうことです。また、発覚したときにはエスカレートした状態となっていることが多く、大問題となります。

ネットいじめも通常のいじめ同様に効果的な解決策があるわけではありません。普段から子どもとインターネットの利用に関してよく話をし、ルールを作っておくことが必要です。また、問題が起きた際にも、子どもが親に相談しやすい環境を地域・学校・保護者で作っておくことが重要です。

パソコンや携帯電話等で誹謗中傷や嫌なことをされる



平成20年度～25年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」（文部科学省）



市税は納期限内に納めましょう

市税は、市民の皆さんが安心して暮らしていくための貴重な財源です。多くの人が納期限までに納付されていますが、納付が遅れると財政運営に支障をきたすほか、きちんと納めた人との間に不公平が生じることになります。大切な財源確保のため、納期限内の納付にご理解とご協力をお願いします。

【問】収納課(古河庁舎) ☎22-5111

■11月・12月は「徴収強化月間」です。滞納処分を強化します

市では、11月・12月を「徴収強化月間」とし、納期限を過ぎても納付しない人や納付する意思がない人に対して、滞納処分(財産の差し押さえ等)を集中的に進めます。納め忘れの人は、納付されますようお願いします。※事情によりやむを得ず納期限内に納付できない人はご相談ください。

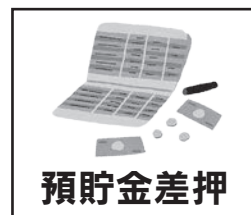


財産差押の例



給与差押

●勤務先に給与の支払い等の調査を行います。差し押さえた後、毎月差押禁止額を除いた金額を滞納している税金に充当します。



預貯金差押

●銀行・農協・郵便局等の金融機関に調査を行います。預貯金を差し押さえ、滞納している税金に充当します。



生命保険差押

●生命保険会社に調査を行います。生命保険を差し押さえ、解約し、解約返戻金を滞納している税金に充当します。



不動産差押

●市町村役場や法務局で所有状況を調査します。土地や家屋を差し押さえ、公売等で換価し、滞納している税金に充当します。

納税相談窓口の時間を延長します

納期限までに納税が困難な事情をうかがい、早期に完納できるように相談窓口の時間を延長します。

- 日時 【午後5時15分～7時30分】
11月24日(火)～27日(金)・30日(月)
12月21日(月)・22日(火)・24日(木)・25日(金)・28日(月)

- 【午前9時～正午、午後1時～4時】
11月29日(日)、12月27日(日)

- 場所 市役所古河庁舎(1階) 収納課
※庁舎北側入口からお入りください。

来年も
まってるよ〜♪



古河市長
菅谷 憲一郎

「あった！ 元気でよかった〜」。

うれしさのあまり感激の声が口を突いて出ている。敬老祝い訪問者名簿にKさんの名前があったからだ。

理由を話したら、同行するスタッフ(高齢福祉課職員)まで喜んでくれた。

訪問日。ワゴン車をKさん宅前に停めて玄関先に立った。引き戸が開いていた。胸の高鳴りを覚えながら家の奥に向かって「こんにちは！ 長寿祝いを持ってきました〜」の声が弾んだ。

初秋の陽光が草木の緑を濃くしていた。

日あたりのいい縁側をぬけて畳の部屋に着座。迎えてくれた顔ぶれは昨年と同じ。Kさんと娘夫婦二組。祝辞を述べ、古河市からのお祝いを手渡した。傍でじっと視つめる目が潤んでいた。

一年ぶりの再会。わずかな滞在時間にもかかわらず、会話が弾んだ。Kさんを真ん中に記念撮影。満面の笑顔でパチリッ。

透き通った光が部屋の隅々まで明るくしていた。

Kさんは今年103歳のおばあちゃんだ。元気いっぱい。娘夫婦はどちらも県外に住んでいるので、ず〜っと一人暮らし。毎日家庭菜園を愉しんでいらっしやる。

「野菜は採りたてが一番。体には無農薬がいいんだよ」と私やスタッフの健康を気遣ってくれた。

70歳を超えた娘夫婦らが「こちらが先に逝くかもね」と目を細めながらジョークを飛ばした。

古河市には90歳以上の人が約1,500人いらっしやる。昨年に比べ約100人増だ。女性は約1,130人がご健在。男性は370人ほど。長生きの勢いが違う。

今年8月に訪問した100歳以上は55人。最高齢104歳(女性)だ。女性が48人。男性はたった7人しか存命していない。

厚生労働省のデータからみる女性の割合は、80歳で約60%、85歳で約70%、90歳で約80%。100歳以上は約90%が女性。

すなわち世のオトコたちがどんなに頑張っても、所詮女性には敵わないのだよ。

ゲンキ老人は自宅での生活者が多い。特に100歳以上は「ねたきり」「車椅子」がきわめて少なく、施設で暮らす重度の認知症者も全体の1割ぐらい。

同居する家族から近況をお聞きすると、「新聞を読むのが毎朝の楽しみ」「ニュースは聞き逃さない」「カラオケが大好き」「草取りや掃除をしてくれる」などと口元をほころばせながら語ってくれた。

あたたかい家族愛が長寿社会を支えている、との思いを強くさせられた一日だった。

Kさん宅を退出しようとしたとき、「来年もまってるよ〜♪」と手を振る103歳の笑顔が子どものようでカワイかった。

またの再会に胸をわくわくさせながらワゴン車に乗り込んだ。



▲マレットゴルフを楽しんで、元気ハツラツの高齢者

折にふれ、私の思いを書かせていただきます。

注目! まちの話題

● 10月7日から11月25日まで、市内の公民館などを会場にタウンミーティングが開催されています。

タウンミーティングで地域のアイデアを聞かせてください

これは、市長をはじめとする市執行部が市民と直接、地域の課題や魅力について意見交換を行うことにより、「市民が主役のまちづくり」の実現を図るためのものです。

これからの古河市をより魅力あるまちにするため、皆様のご意見をお寄せください。そして、その実現にご協力をお願いします。



▲防災に関するご意見を多くいただきました

● 仁志敏久杯 学童野球大会に43チーム熱戦



▲市内外から43チームが参加。元気よく入場行進を行いました

古河市出身で、元プロ野球選手の仁志敏久さん(古河大使)が支援する「仁志敏久杯28回古河市学童野球大会・新人戦」(市スポーツ少年団主催)が、9月27日、10月3日・4日の3日間、古河市民球場などを会場に行われました。仁志さんは開会式で試合に臨む小学生へ「日ごろの練習の成果を十分に発揮してほしい」と激励。選手たちは攻守にわたって元気なプレーを繰り広げました。

全チームが頂点を目指した結果、市内の「古河リトルファイターズ」が優勝しました。

● 合併10周年記念オリジナルナンバープレートを交付しています



▲交付枚数は2,000枚。ご希望の方は早めに申請してください

10月1日から市役所各庁舎で、古河市合併10周年を記念した原動機付自転車(50cc以下)のオリジナルナンバープレート(標識)を交付しています。ナンバープレートには、古河市出身のアニメーター・浅野恭司さん(古河大使)がデザインした「万寿王丸」や市の花「ハナモモ」、古河藩主で雪の殿さま土井利位にちなんだ「雪の結晶」が描かれています。新しく購入する人や、現在交付を受けている従来のナンバープレートから交換を希望する人に無料で交付しています。

● 環境のためにできること
ハンドメイドの小物入れ作り



▲講師の説明を受けながらハンドメイドに挑戦

9月25日、古河市環境市民委員会生活環境部会が主催して「素敵にハンドメイド小物入れ」教室が中央公民館で行われました。

材料はエコクラフト(紙紐)。再生紙で作った紙紐のため、環境にやさしく、ごみの減量化にもつながります。また、針や糸を使わず、紐を編むだけで簡単に作ることができます。

講師の説明を受ける参加者の顔は真剣そのもの。「出来上がりが楽しみ。何を入れようかしら」と、楽しみながらも環境問題を考えるきっかけとなっていました。

● スロージョギングで脳と身体が元気に！
～楽しく、ゆっくり走りましょう～



▲参加者同士おしゃべりをしながら、スロージョギングを楽しんでいました

9月13日、とねミドリ館で「市民公開講座」(市・古河市医師会主催)が開催されました。

講師の田中宏暁先生(福岡大学教授)が、スロージョギング(歩く速度でゆっくり走る運動)の効果や走り方のポイントを実技を交えながら講演。「おしゃべりをしながら、笑顔を保てる程度のスピードで走ることが大切」と話す田中先生。参加者からは、基礎体力向上や生活習慣病予防、減量、脳の活性化など多くの健康効果が期待できるスロージョギングを続けたいという声が多く聞かれました。

● 古河
ラップにのせて全国に古河をPR

「一度聴いたら忘れられない」「つつい、口ずさんでしまう」。そんな素敵なお当地ソング『ここが古河』。県内各地のお当地ソングを手掛ける茨城の青木智也さんと、古河市文化協会に所属するコント集団「自己批判ショー」のメンバーが共同で制作しました。

『ここが古河』は、茨城弁をふんだんに取り入れたラップ調のリズムにのせて、古河提灯竿もみまつりや歴史、観光施設などを紹介。8月下旬には、総務省が運営する移住定住等の情報提供サイト「全国移住ナビ※」の古河市のPRソングとして採用されています。

制作者の古河市を思う気持ちがたっぷり込められている『ここが古河』。皆さんも、曲を通じて古河市の良さを再発見してみませんか。
※全国移住ナビHP<https://www.iju-navi.soumu.go.jp/onl/ibaraki/koga/>



▲9月29日、菅谷市長を表敬訪問し、曲とPV(プロモーションビデオ)の完成を報告



▲『ここが古河』のPVは古河駅前など、すべて市内で撮影しました

ふる里日記

古河で育った
小太刀さんの
ふる里の思い出

東京都目黒区生まれのあきる野市で育った私が、初めて古河の地を踏んだのは3歳の時。

私が「ここがいい！」と両親に言ったから家の場所が決定したという話がございまして。そんな小さな時のことなど覚えてもいないのですが、縁あって高校受験を前に古河へ移住。引っ越した月である3月に何十年に一度の大雪が降るといふ、ミラクルに見舞われたのであります。

あまりの積雪に「これが雪華の町・古河の本気か…」と面を食らったのを覚えています。ああ、懐かしい移住1年目。かのようにして、私の古河に対する第一印象は「寒い」というものでした。

古河市は町中に雪の結晶を描いた「雪華模様」があるように、日本で初めて雪の結晶を調べた雪の殿様・土井利位や蘭学者・鷹見泉石など、多くの偉人を輩出している町です。

「寒い」という簡素な感想を抱いたまま生活するのはもったいないと、旧古河市の史跡を全て巡ったのであります。史跡地図片手に炎天下の二日間、自転車での小さな時間旅行。高校生の夏休みの思い出がまさかの「地元の史跡を制覇する」という渋いものになりましたが、そこで知ったのは古河の歴史の深さと面白さ。

歴史好きの私にとっては素晴らしい体験となりました。それからというもの、地元古河の史跡を散歩するというのがわたしの趣味の1つになるのであります。

史跡を全て巡ったあの日からすっかり惚れ込んでしまい、「古河の歴史の素晴らしさを広めたい！ 伝えたい！」という歴史好きと郷土愛からはじまった個人プロジェクトが「茨城県古河市非公認ご当地キャラクター・こがにゃんこ」でございまして。

こがにゃんこは蘭学者・鷹見泉石をモデルにした「たかみにゃん石」と雪の殿様・土井利位をモデルにした「どいしゃむ位」の2匹のにゃんこでございまして、雪の結晶を調べ、古河が雪華のデザインで彩られるきっかけを作った方々です。

お絵かきが好きだった幼少の頃から夢に見ていたデザイナー職についた私。自分の得意なことを活かして活動を始めた「こがにゃんこ」で、ふるさとを伝えられるというのは幸せなことです。そして、ふるさとの古河に帰るたびに史跡に散歩に行くのです。次のクリエイティブの充電のために。



デザイナー・イラストレーター
小太刀御緑さん

図書館のオススメ

【絵本】

○はいくないきもの

谷川 俊太郎 作
皆川 明 絵

空を飛びたい、歌を歌いたい…。
そう強く願ううちに、ちょっと
変わった姿かたちになったい
きものたち。不思議な言葉は、
五七五の俳句調。ファッション
デザイナー・皆川明と詩人・谷
川俊太郎が赤ちゃんに贈る初め
てのファンタジー。

出版社…クレヨンハウス
分類…Eハ



【一般書】

○屋上のウインドノーツ

額賀 滯 著

友達がひとりもない県立高
校へ入学した、引っ込み思案の
少女・給前志音は、ワケありの
部長・日向寺大志に誘われ、吹
奏楽部に入部する。やがて厳し
い練習の日々が始まって……。
爽やかな風を感じる熱血部活小説。
出版社…文藝春秋
分類…Fヌ

○結果を出せる人になる！

「すぐやる脳」のつくり方

茂木 健一郎 著

「抑制」を外す、すると、脳
は軽やかに回りだす！ 脳内ダ
イエット、締め切りの力など、
大胆な決断力と実行力が手に入
り、1番重要なことに集中でき
る31の思考習慣を紹介する。
出版社…学研パブリッシング
分類…159モ



【児童書】

○おばけやようかいがいっぱい でてくるおはなし

主婦の友社 編

おばけ、妖怪、モンスター…。
ちょっぴりこわい想像の世界を
楽しむ、子どものためのおはな
しを収録。日本古来の妖怪を中

とねミドリ館
(生涯学習センター総和)

注目企業人

～市内の企業を元気に支えるみんなを紹介～
「何事もスピード感を大切にしています」

積水ハウス株式会社関東工場 高橋 美和子さん

人生の大きな買い物の一つと言われる『住宅』。それだけに、たくさんの人の夢が詰まっています。そんな住宅のメーカーに勤める高橋さんは、工場で建具や収納の内装材を担当。さまざまな商材を施工現場へ出荷するまでの調整業務やお客様への見学施設の案内業務などを行っています。

常に心掛けているのはスピード感。「取引先や社内の担当者を不安にさせないよう、早めに提案・解決することが入社以来のモットーです」と話します。

結婚を機に時間の使い方を強く意識し始めたという高橋さん。仕事と家庭を両立させたいとの思いから、整理収納アドバイザー1級の資格を取得しました。社内の調整役として奔走する傍ら『整理収納のプ

ロ』としても活躍。3S(整理、整頓、清掃)活動の意義や効果を社員に伝えています。

今後の目標は「ぜひ、あなたにこの仕事を任せたい」と思われる人になること。休日には、興味のある講座やセミナーを求めて東京まで出かけるなど、スキルアップに余念がありません。

そんな元気な高橋さんの笑顔は、さらに輝きを増して職場や家庭をますます明るく照らすことでしょう。

■プロフィール

車の運転が好きで、家族のお出かけでは運転手になる高橋さん。2児の母親でもあります。33歳・桜町在住。



古河文化見聞録

姉妹都市の魅力

～歴史と文化で結ばれたまちの文化財～

現在、古河市には、3つの姉妹都市が存在しています。

さくら・真室川・大野—どのような理由で、いつからそうした関係を結ぶにいたったものであるのでしょうか。古河のまちは、政治・文化・交通の要衝として豊かな文化を育みつづけ、その複雑で重層的な歴史を背景に各地へ交流関係を拡散させました。とりわけ栃木県さくら市・山形県真室川町・福井県大野市とのあいだに、濃密な歴史と文化による深い関係が築かれたことはまちがいありません。

合併10周年の今年、古河歴史博物館では姉妹都市の貴重な文化財を展覧するため、いづれ劣らぬ優品たちの公開を11月30日(月)までおこないます。

さくら市—古河公方足利氏が取り持つ縁

さくら市との関わりは、古河公方足利氏の時代、すなわち560年前にさかのぼります。室町幕府の東国支配の要、鎌倉府の長として権勢をふるった足利成氏は、京都の将軍家と対立して古河に拠点を移しました。いち早く

日本史上に戦国時代の幕開けを刻み、その後130年にわたって古河城を拠点とした古河公方足利氏は、豊臣秀吉によって喜連川に移封、江戸時代を通じて喜連川城主としてその由緒を守り続けています。友好関係の気運が高まり、当時の栃木県喜連川町と姉妹都市締結に至るのは昭和60年のこと。平成17年には喜連川町と氏家町の合併で「さくら市」誕生、翌18年、あらためて姉妹都市となりました。

拝借した貴重な文化財では、殊に荒井寛方の作品が異彩を放ちます。陳列品には昭和14年から20年まで法隆寺10号壁画の修復模写にあたった経験から生まれた聖観音など、独自の仏画世界に引き込まれるものばかり。そのほか、江戸時代の喜連川藩主足利恵氏や熙氏の書画作品、そして詩作を通じて若い頃から鷹見泉石の曾孫久太郎と交流のあった野口雨情の書幅も陳列されています。ちなみに雨情の妻ヒロは喜連川の素封家の出身、そんなところにも関係性がみられるのでした。

真室川町—土井利勝の客分に迎えられた鮭延秀綱

昭和63年、旧総和町と姉妹都市を結んだ山形県真室川町。両者の関係は、平成17年の古河市合併を経ていっそう密になったといっても過言ではありません。

両者を結ぶ戦国武将の鮭延秀綱は、のちに御家騒動により取り潰された最上家(山形城主57万石)に1万石をこえる石高で召し抱えられていました。その石高に劣らぬ武勇と智謀を備えた武将としてしられ、主家を失った後、徳川幕府最大の実力者で当時佐倉城主9万2千石であった土井利勝のもとに客分として招



◀昭和17年荒井寛方筆「聖観音」
(栃木県指定文化財、さくら市
ミュージアム—荒井寛方記念館蔵)



左：国重要文化財「銅造如来倚像」〔7世紀末～8世紀初、真室川薬師神社(山神社)蔵〕
 右：お福が輿入れに使ったとされる「水車紋忍冬唐草蒔絵乗物」〔柳廼社蔵〕

かれます。9万石から5千石という大禄を割いて迎えたことから大人物ぶりがしのばれることでしょう。その後、秀綱は、利勝に従い古河に移りますが、いつの頃からか真室川から随従する家臣たちにその禄高すべてを分配して彼らの屋敷を巡り暮らしたという逸話も残されています。市内大堤の名刹、鮭延寺は、その遺徳を偲び建立された寺院であり、その破格ぶりに驚かされることでしょう。

そして真室川町からは、1,300年ほど前に造られた「銅造如来倚像」が特別出陳されています。真室城の薬師堂に安置されて永くこのまちを守り続けているこの如来倚像は、白鳳時代の特徴を表す優品として昭和62年に国の重要文化財に指定されました。鮭延家の先祖佐々木源氏によって戦国期、近江国から移入されたという伝承を持つこの如来様は、御堂に集う子どもたちとよく遊び、子どもたちはたいせつにお世話をすることが常であったそうです。真室川の子らのアイドル、見逃すことはできません。

大野市一里帰りを果たす土井家姫君の御道具たち

平成2年、福井県大野市との間に結ばれた姉妹都市の関係は、古河城主土井利勝の四男利房が古河城主へ転封したことに由来します。兄の利隆は古河城主を襲封していますので、文字通り藩主が兄弟関係ということになるでしょう。利房は、四代將軍家綱の政権を支える老中として活躍しました。

また、幕末の大野城主土井利忠は、逼迫する藩財政と家中の貧窮に対する御家御存亡の御改革を推し進め、その立て直しに道筋を付けた藩主として城下に建立された柳廼社に祭神として祀られています。その改革の源泉となった利忠の比類のない発想力は、実用の学問を修める場として洋学館を設立、有能な人材の発掘と登用、藩直営の商社というべき大野屋の全国展開、スクーネル型洋式帆船「大野丸」の建造および大野藩における運営と活用、北蝦夷地の開拓、軍制改革や洋書翻訳出版事業など、そのいずれも歴史学上に高い評価を受けてきました。蛇足ながら利忠の後見人は土井利位で、鷹見泉石関係資料に利忠から出された書状が数多く残されており、この名君誕生に古河発信の文化がいささかなりとも影響していることをかいま見ることができるといえるでしょう。

元治2(1865)年2月23日、利忠の嫡男利恒のもとへ、古河土井家の姫君であるお福が輿入っています。偶然にも近年、このお福姫の輿入れ道具があらたに発見されました、そして、この貴重な品々は、入輿のときに使用された絢爛豪華な乗物とともに、このたび特別な許可を得て古河への里帰りを果たしています。もちろん本展にて初出品、会場に足をお運びのうえ、ぜひご高覧くださるようお願い申し上げます。

古河歴史博物館学芸員 永用俊彦

近ごろ、テレビなどでもよく耳にする通称「脳トレ」。「脳トレニング」を短くして「脳トレ」と呼んでいます。

実は「人間の脳は全体の数%しか使われていない」といわれています。いままで使われていなかった脳の広い範囲を活発に動かすことが「脳トレ」です。

脳トレの効果

体は鍛えれば何歳でも筋力がアップします。同じように、脳もいくつになっても使えば使うほど脳に効果があります。

では、脳トレにはどんな方法があるのかをご紹介します。

「脳トレ」の方法

①簡単な計算問題を早く解く
難しい計算問題に取り組むより簡単な計算に挑戦する方が、脳の広い範囲が活発に働きます。

②音読する

声に出して文字を読むことです。黙読よりはるかに脳によい刺激となります。

③文字を書く

手を使って文字を書くことも脳によい刺激となり、非常に効果的な脳トレです。

④手先を使う

折り紙など指先を使うことは、折り紙をしている間ずっと脳に刺激が与えられ、神経を集中するため非常に効果的です。

⑤新しいことに挑戦する

毎日同じことだけを繰り返している、脳が刺激されず機能が衰える可能性があります。いつもと違う道をウォーキングしたり、普段と別の店で買い物をしたりして、新しいことに挑戦してみましょう。

脳トレのポイント

大切なことは「無理にやらないこと」です。嫌々脳トレをやることは逆効果です。

脳トレには今回紹介した以外にもたくさん方法があります。いろいろなことに挑戦して、自分自身が楽しくできることを見つけて続けてみましょう。

果のある脳トレになります。ポイントは歩きながら、もう一つのことを同時にすることです。ただし、安全が確認できる状態のときに挑戦してみましょう。

例えば…

●歩きながら「しりとり」をする

●歩きながら季節感があるものを探してみる

さらに、自宅に帰ってから歩いて気づいたことを思い出し、ノートに書いてみることもお勧めです。

高齢福祉課



ウォーキングでも脳トレ

運動を目的に歩いている人も多いと思いますが、実はウォーキングもやり方次第で効

脳トレに挑戦！



●計算問題です。

□にあてはまる数字は？

① $5 + \square = 9$

② $3 + \square + 2 = 8$

③ $\square - 2 = 7$

④ $8 - 5 + \square = 5$

⑤ $\square \times 7 = 42$

⑥ $9 \div \square = 3$

⑦ $5 - 3 + \square = 6$

⑧ $\square + 1 - 7 = 2$

●バラバラ文字の問題です。

並べ替えると単語になります。

⑨じ・も・み

⑩う・こ・よ・う

⑪し・ど・よ・く

⑫と・あ・ぼ・ん・か

※答えは31ページ(下)にあります。

穏いパークの魅力

晩秋の古河公方公園



紅葉もいちだんと進み、日の暮れも日に日に早くなって「晩秋」という言葉どおりの季節を迎えています。朝晩は随分冷え込むようになりましたが、風邪などひかれてはいませんか。

さて、このたび古河総合公園は皆さんから「古河公方公園」という、とても素敵な愛称をいただきました。公方様の森や御所沼、徳源院墓所、古河公方館跡など公方様との関わりが深く、歴史的な観点からも古河総合公園には、よく似合っている愛称ですね。

これからは「古河総合公園」と同じように、「古河公方公園」としても皆さんにお伝えする機会が増えてくると思われますので、どうぞよろしくをお願いします。



さて、11月のイベントといえば、おなじみの「古河よかんべまつり」。たくさんの模擬店や野外ステージなど、楽しい催しものがいっぱいです。今年の「古河よかんべまつり」は11月7日(土)・8日(日)の2日間。どうぞお誘い合わせのうえ、ぜひお出かけください。

11月の総合公園は、まだ紅葉もきれいです。暖かな日の午後など、過ぎゆく秋のなかで散歩を楽しまれてはいかかですか。

【問】古河公方公園(古河総合公園)管理棟 ☎47-1129



表紙写真



今月の表紙は、小学生が思い描いた未来の古河市です。合併10周年記念「未来の古河展」として、小学生から作文と絵画・ポスターを募集。10月2日、合併10周年記念式典で表彰を行いました。

夢やアイデアがたくさんつまった作品はどれも力作ぞろい。最優秀賞・奥山葵晴さん(中央小学校2年)の作品は『未来のぐるりん号』(表紙上段右から1番目)。「れきしある古河のまちを大切にしながら、ぐるりん号で空をとんだり、みんながたのしく暮らせる未来がくるといいな」と話す奥山さん。子どもたちが思い描く未来の古河市は夢があって楽しそうですね。

寄付



古河東ロータリークラブ(佐藤孝子会長)より、市内小・中学生へ災害救助犬クリアファイル1万2,000枚の寄付。

古河市データ

人口



(10月1日現在) 住民基本台帳から
 総人口… 144,830人 (-29)
 男……………72,858人 (-34)
 女……………71,972人 (+5)
 世帯数…58,873世帯 (+52)
 () 内は前月比

★わが家のアイドル★



しのつか ふうま
篠塚 楓馬くん (1歳1カ月・下辺見)

いつも元気いっぱい、おてんば楓馬くん。最近では、ジャングルジムや外で遊ぶのが大好き。みんなを笑顔にしてくれてありがとう。ご飯をいっぱい食べて早く大きくなって、これからもみんなから愛される楓馬くんになってください。(父：勇人 母：仁美)

今月の料理

ミルクふろふき大根
＜高血圧予防食＞



- ①ダイコン1/2本とニンジン2本は皮をむいて2cm幅のいちょう切りにし、下茹で後、水気をきっておく。
- ②鍋に牛乳600cc、水100cc、みりん大さじ2、塩小さじ1/2を入れて火にかけ、煮立つ直前に①を入れ、落とし蓋をして弱火で20分間煮る。
- ③別鍋に豚ひき肉200gを入れ、中火で炒める。ひき肉に火が通ったら牛乳200cc、みそ60g、砂糖大さじ3、片栗粉小さじ2、こしょう少々を加える。弱火でとろみがつくまでよく混ぜながら煮る。
- ④器に②をスープごと盛り、③をかけて好みで茹でたダイコンの葉やゆず皮を添える。＜4人分＞

＜1人分＞
エネルギー＝367kcal
タンパク質＝18.9g
脂質＝16.2g
カルシウム＝310mg
食塩相当量＝2.9g



(食生活改善推進協議会)

●今年度から市内幼稚園・保育園等が交替でこのコーナーを担当しています。



子育てアドバイス

子どもを育てる



子どもの成長には、およそ7年ごとに大きな特徴が見られます。第一期の7年は、子どもの誕生から乳歯が永久歯に生え替わるまでをいい、「すべてをまねる」をいう性質が顕著です。周りの事象を身体中で知覚して模倣していくので、身体と五感を育てることが大切な時期です。そのことが大人になってからの心の持ち方や強い意志を育てていく源になります。

そして、親が子どもに伝えなければならぬのは価値観。つまり「ものの考え方」です。人間は誰でも失敗します。ズーっとうまくいく人生などありません。自分が失敗したとき、物事がうまく進まないとき、どう捉え、どう対処していくかを子どもにも伝えることが大切です。つまり、親が「生きる手本」を言葉ではなく行動で示すのです。私たちは自分が失敗したとき、子どもの目の前で言い訳をすることが多くあります。誰かのせいにすることもありません。それでは子どものためにはなりません。自分の不注意や努力不足を反省して「次は頑張る」という姿勢を子どもに見せることが大切なのです。

私たちは「物事がうまくいく」という前提で考えているような気がしますが、果たしてそれでいいのでしょうか。人生はうまくいかないことのほうが多いのではないのでしょうか。うまくいかないから努力し、うまくいかなければ準備するのです。次世代を継ぐ子どもには、たくましく、粘り強く、未来を生き抜く力と知恵を持つてほしいものです。行動によって、親から生きる手本を示された子どもは、逆境にあってもくじけず、自分の人生を切り拓いていける強い心が育っていきます。

フリーベル幼稚園

平成27年11月1日発行

●発行所／〒306-0291 茨城県古河市下大野224-8 古河市役所 20280(92) 3111
●編集／秘書広報課 ●ホームページ／<http://www.city.haraki.koga.jp/>